

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 178 号 (2025 年 1 月号)

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
<http://izumichurch.holy.jp/>
発行人 宮地 宏一



Happy New Year 2025

新年明けまして おめでとうございます 先月の二週目以降、寒さが増して、一気に真冬になりました。数日前まで「今日も暑いですね～いつ寒くなるんですかね？」なんて挨拶していたのがウソのよう。秋が本当に短く、四季から二季になるのも、そんな先の話ではなさそうです。

さて昨年の漢字は「金」でしたが、私にとっても「金」の年でした。26歳で免許を取ってから、20年弱ずっとブルーだった私。ついにゴールド免許になりました。今では車に乗るたびに「お父さんはゴールドだから」が合言葉となっています笑 2025年も、どうぞよろしくお願いします！



今月も皆様とご家庭の上に、神さまからの恵みが豊かに注がれますように。

(2025.01.01)



Want? & Must?

年末年始に買い物に行くと、普段以上に「SALE」、「〇%割引」という文字が躍っています。私はこの「SALE」「割引」が大好き。正規の値段で購入すると何だか損した気分になるのです。行きつけのドラッグストアでも、割引シールが貼ってある商品ばかりに目がいきます。そのため本当に欲しいものではないものを買ってしまうことがよくあるのです。これは節約、物を無駄にしないという面においては良いことかもしれないと。けれど知らず知らずのうちに「割引でなければならない」という縛りを自分に課していたようです。



この縛りから解放されるために、先日、私は割引シールがついていないものを買おうとしました。娘に「父さんは今日、割引シールがついていない、自分の食べたいものを買う」と宣言し、選び始めたのですが、自分が何を食べたいかが分からず、悩みに悩みます。

この私の気持ちなど全く知らない妻は「あ、私、これ好き。これにしょ！」と割引シールのついたものをカゴにポンと入れたのです。結局、私はいつものカップうどんをカゴに入れました。すると娘から「普通じゃん」との突っ込みが。。それにしても、どうして私が「食べたいもの」を買おうとしたのか。それは「ミドルエイジ・クライシス」の記事を目にしたからです。

私は昨年の中盤あたりから疲れが取れず、やる気が起きない日々が続いたのです。これが「ミドルエイジ・クライシス」だと最近、ある方が教えてくださいました。自分はまだ若いと思っていましたが、もう中年期なんですね。中年期は人生の正午で、午後である老いや死に向かうときに危機を迎える人が多いと腫瘍精神科医の清水研氏。清水さんご自身も「ミドルエイジ・クライスト」を経験されたそうです。





私たちは普段は意識しないが、心の中に「want (～したい)」と「must (～しなければならない)」の「相反する自分」が存在するという。want は…感情や感性が優位な自分。must は親のしつけや学校教育、社会規範などから形作られた…理性や論理が優位な自分。大事なはそのバランスだ。…

「強い must に縛られてきた人が、それに従うエネルギーを失い、心が悲鳴を上げたとき、中年の危機が起こります。今までの生き方が苦しくなり、手放す必要に迫られるのです」

【この危機に 39 歳の時に直面した清水さんは】まず自分の中の want の声に耳を傾けることから始めた。「…コンビニで昼食を選ぶときに『短い時間でさっと食べられるものを』や『カロリーが高いものは避ける』で選ぶのではなく、『自分は今、何を食べたいか』に集中した。手に取ったカツ丼を食べて喜んでいる自分を発見しました。」

【朝日新聞 2024.12.26 「いま聞く」より】



私も清水さんのように強い must に、ずっと縛られてきました。「とにかく良い人になり、誰からでも愛される人にならなければならない」という声に従っていたのです。だから人に嫌われないように、一生懸命気を使ってきました。でも上手いかなかった。気を使えば使うほど、たくさんの失敗をしました。そんな自分を私は受け入れられなかったのです。

清水さんは「ミドルエイジ・クライシス」を脱するステップの三つ目に「自分を許し、愛する」ことを挙げています。でも「自分を許し、愛する」のは難しい。すぐにネガティブな声が心の底から湧き上がってくるからですね。

「お前はダメだ」「何一つ上手くいっていないじゃないか」この声に押しつぶされ、“自分なんて許されるはずがない、愛される資格などない”とってしまうのです。けれど聖書には、人がどんなに失敗をしても、裏切っても、どこまでも彼らを赦し、愛することを決して諦めない神さまの姿が描かれています。

この神さまが私たちをも赦し、愛してくださいさるのです。たとえ自らを許し、愛せなかったとしても、神さまは私たちを愛して、愛して、愛し続けてくださいます。そして「あなたを見放さず、あなたを見捨てない」と絶えず語り掛けてくださるのです。

また神さまは私たちを、ご自分の願うように縛り付けるお方ではありません。私たちに自由を与えてくださり、私たちの want に耳を傾け、私たちの want に委ねてくださるのです。振り返ってみますと、私は自分の want にあまり関心がなく、どちらかとい

うと周りの流れに身を任せる人生でした。これは決して悪いことではないと思いますが、積極的な歩みではなかったような気がします。

ですから新しい年、まず自分の want を知り、主体的に生きることができたらと願うのです。この主体的に生きるとは、何が何でも自分の願いを実現するというものではありません。自分の願いを神さまの前に祈り、同時に神さまの願いを知り、神さまとともに生きること。このような歩みの中で、私たちは神さまの愛と赦しを日々味わい知り、徐々に自らを許し、愛することができるようになるでしょう。

わたしの目には、あなたは高価で尊い。

わたしはあなたを愛している。[聖書]



- 礼拝 毎週日曜日 10:30~12:00
- イズミン・キッズ 毎週日曜日 9:30~10:20
- おやこ de えほん 毎週水曜日 10:30~12:00

* どなたでも歓迎いたします！すべて事前申込みなしで参加いただけます。

上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。

